

平成30年度埼玉県学力・学習状況調査

調査結果の分析・活用について



本調査は、本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的としています。

各小・中学校におかれましては、調査結果から、①各学校の実態を把握し、②分析を行うことで課題等を踏まえた③仮説を設定し、その仮説に基づく取組によって④検証を行うといったサイクルの確立につなげていただけたらと考えています。

県教育委員会では、各小・中学校における分析等が効果的かつ円滑に行えるよう、分析方法の例を作成しました。各小・中学校におかれましても、独自の分析等と併せて御活用ください。

分析・活用の手順

分析

①前年度の学年全体の様子を把握し、分析する。→【帳票28】

- ・学年別、教科別の伸びの様子がグラフで示されています。
県の様子と比較して特徴が見られる部分を確認します。

②前年度の学級の様子、児童生徒の様子を把握し、分析する。

→【帳票1】【帳票40】

- ・帳票を前年度の学級ごとに並び替えて、「伸びの平均」や「伸びた児童生徒の割合」を計算します。

活用

○伸ばした先生が行っている効果的な取組を、学校全体で共有する。

- ・伸ばした学級の担当者からの聞き取りや、伸ばした教員の授業参観等を行い、効果的な取組を共有します。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

- ・取組と「学力の伸び」等の相関関係から、自校の成果や課題を見つけます。

【帳票28】を活用した分析

分析① 前年度の学年全体の様子を把握し、分析する。

- 【帳票28】「各実施主体の調査結果票」から自校の概要を捉える。
→ 「年度間の学力の変化」や「学力階層別の伸びの状況」を分析する。

(1) 年度間の学力の変化

【分析①】学力の伸び幅の違い

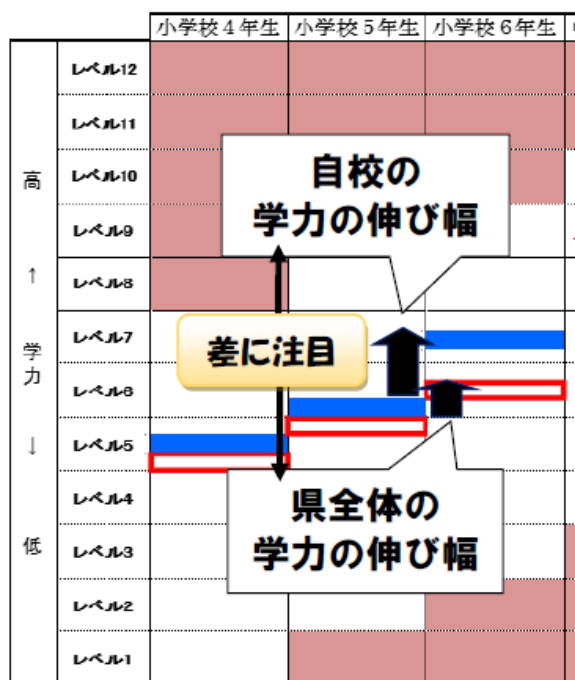
→ 伸び幅が県平均よりも大きい学年や教科を見付ける。

【分析②】学力レベルの違い

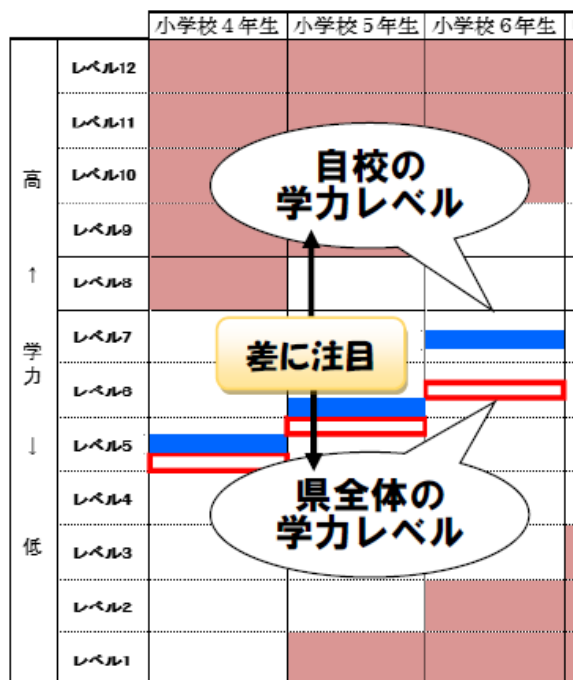
→ 学力が県平均を上回っている学年や教科を見つける。

→ 学力が他学年の同時期を上回っている学年や教科を見付ける。

【分析①】学力の伸び幅の違い



【分析②】学力レベルの違い



※ 【帳票27】では、異なる年度の同学年と学力のレベルを比較することができます。

「伸び幅が大きい」「学力のレベルが高い」学年や教科は、効果的な指導や取組を行っている可能性があります！

(2) 学力階層別の伸びの状況

【分析①】 学力層別の伸びの状況

→ 各学年の中で傾きが大きい学力層を見つける。

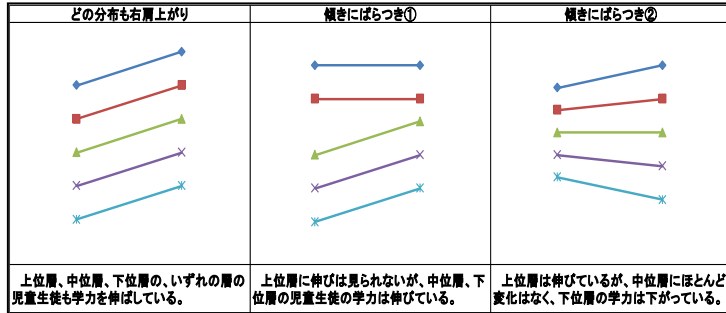
【分析②】 埼玉県とのグラフの傾きとの比較

→ 県平均より傾きが大きい学年や教科を見つける。

【分析③】 各学力層の学力レベル

→ 県と比較して、学力レベルが全体的に高い／低い、学力階層によってレベルが高い／低いなどの傾向を見つける。

<グラフの見方>



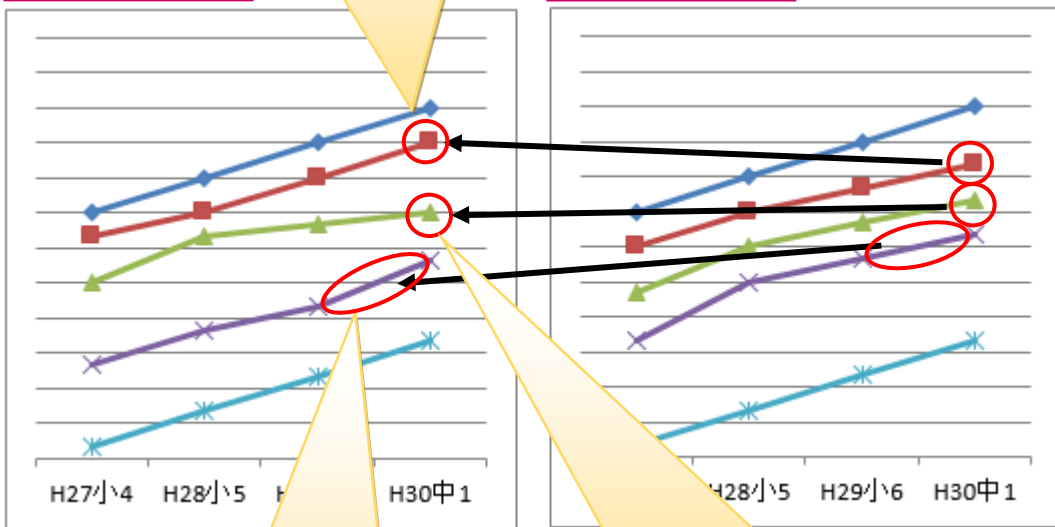
- ◆ ⇒ 最大値(最も学力が高い児童・生徒が属する学力レベル)
- ⇒ 75%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- ▲ ⇒ 中央値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- × ⇒ 25%値(学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力レベル)
- * ⇒ 最小値(最も学力が低い児童・生徒が属する学力レベル)

分析例

学年の中で上位層の学力のレベルが高い
⇒上位層を伸ばす工夫があったのではないかな。

貴実施主体

埼玉県



下位層のグラフの傾きが
県のグラフより傾きが大きい
⇒下位層への充実した支援が
あったのではないかな。

中位層の学力が伸び悩んでいる
⇒前学年でのつまづきがあるのではないかな。

※【帳票26】では、各学年・各教科の「学力の伸びの状況」を一覧で見ることができます。

【帳票1】【帳票40】を活用した分析

分析②

前年度の学級の様子、児童生徒の様子を把握し、分析する。

- 【帳票1】 教科に関する調査 採点結果、【帳票40】 学力分析データ (学習方略・非認知) を前年度の学級で並び替える。

→ 「伸びの平均」や「伸びている児童生徒の割合」を分析する。

今年度のクラス								前年度のクラス			
学年	組	出席番号	性別	個人番号	H30レベル	昨年度からの学力の伸び	H29 学校名	H29 学年	H29 組	H29 出席番号	
6	2	1	1	1000001	7-B	1	〇〇市立△△小学校	5	3	2	
6	2	2	2	1000002	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	1	9	
6	2	3	1	1000003	9-A	6	〇〇市立△△小学校	5	2	13	
6	2	4	1	1000004	9-C	-2	〇〇市立△△小学校	5	2	14	
6	2	5	2	1000005	6-B	3	〇〇市立△△小学校	5	2	15	
6	2	6	1	1000006	9-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	11	
6	2	7	2	1000007	6-A	4	〇〇市立△△小学校	5	3	12	
6	2	8	2	1000008	5-C	2	〇〇市立△△小学校	5	3	13	
6	2	9	1	1000009	8-C	3	〇〇市立△△小学校	5	1	13	
6	2	10	1	1000010	7-B	0	〇〇市立△△小学校	5	1	16	
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18	
6	2	12	2	1000012	7-A	2	〇〇市立△△小学校	5	1	3	

今年度
(6年2組)



昨年度
(5年3組)

H29→H30 学力の伸び										
学年	組	出席番号	性別	個人番号	H30レベル	昨年度からの学力の伸び	H29 学校名	H29 学年	H29 組	H29 出席番号
6	2	1	1	1000001	7-B	1	〇〇市立△△小学校	5	3	2
6	2	6	1	1000006	8-C	-1	〇〇市立△△小学校	5	3	11
6	2	7	2	1000007	6-A	4	〇〇市立△△小学校	5	3	12
6	2	8	2	1000008	5-C	2	〇〇市立△△小学校	5	3	13
6	2	11	1	1000011	9-A	3	〇〇市立△△小学校	5	3	18

【分析①】 学力の伸びの平均
 $\{1 + (-1) + 4 + 2 + 3 + \dots\} / N$
 ・ N = 5年3組の人数

【分析②】 伸びた児童生徒の割合
 n / N
 ・ n = 5年3組の伸びた児童の人数
 ・ N = 5年3組の人数

分析例

n29 クラス	学力の伸び		伸びた児童の割合		主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
	国語	算数	国語	算数		
旧5-1	1.85	3.59	73.4%	96.5%	2.4 (+0.3)	2.4(+0.1)
旧5-2	3.42	1.77	91.8%	75.1%	2.1 (+0.1)	2.6(+0.2)
旧5-3	1.53	1.80	77.2%	69.9%	2.0 (+0.4)	2.8(+0.1)

分析例

<例1> 学級ごとの分析 (小学校・学力)

H29 クラス	学力の伸び		伸びた児童の割合		主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
	国語	算数	国語	算数		
旧5-1	1.85	3.59	73.4%	96.5%	2.4(+0.3)	2.4(+0.1)
旧5-2	3.42	1.77	91.8%	75.1%	2.1(+0.1)	2.1(+0.1)
旧5-3	1.53	1.80	77.2%	69.9%	2.0(+0.4)	2.8(+0.1)

1組は算数、2組は国語の指導で成果を上げている。
⇒お互いの得意な教科指導のよい指導方法を共有

<例2> 学級ごとの分析 (中学校・学力)

H29 クラス	教科 担当	学力の伸び	伸びた生徒の割合	主体的・対話的 で深い学び	非認知能力 (自制心)
		数学	数学		
旧2-1	A教諭	2.87	92.80%	2.1(+0.3)	2.4(+0.2)
旧2-2	B教諭	1.65	74.50%	1.8(+0.0)	1.8(+0.1)
旧2-3	A教諭	2.36	88.90%	2.2(+0.1)	2.1(+0.1)

ベテランA教諭は担当クラスの学力等を伸ばしている。
⇒若手B教諭へ指導法を継承

<例3> 学級ごとの分析 (学習方略^{*1}・非認知能力^{*2})

^{*1}^{*2}については最終ページ参照

	A Lの 実施	学習方略						非認知能力		
		柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	認知的方略	努力調整方略	自制心	自己効力感	勤働性
県平均	2.1	2.4	2.3	2.5	2.8	2.2	2.1	-	2.7	-
市町村平均	2.2	2.5	2.3	2.3	2.8	2.2	2.3	-	2.8	-
○年生平均	2.1	2.4	2.3	2.4	2.8	2.2	2.2	-	2.6	-
●年1組	2.0	2.3	2.2	2.2	2.8	2.2	2.2	-	2.7	-
●年2組	2.1	2.5	2.3	2.6	2.8	2.1	2.1	-	2.5	-
	学級におけるA L実施状況	状況に合わせて学習方法を柔軟に変更する活動	計画的に学習に取り組み活動	ノートに書くなど、作業を中心に進める活動	友達を利用して学習を進める活動	自分の理解度を深める活動	苦手などの感情をコントロールする活動	自分の意思で感情や欲望をコントロールする力	自分はそれができるという期待や自信	やるべきことをきちんとやる力

柔軟的方略・プランニング方略・作業方略に課題がある。

⇒与えられた課題を解決するために、どう計画し、どのような作業を通して、解決していくかという見通しがもてていない児童がいる

県平均よりもよい結果
県平均よりも悪い結果

【重要】
昨年度からの
変更点

学習方略・非認知能力の グラフの見方

- ・5.0~1.0で数値化
- ・5.0がもっともよい数値、1.0がもっとも悪い数値
- ・全ての項目で大きい方がよい数値を表す

昨年度は

- ・1.0がもっともよい数値、5.0がもっとも悪い数値
- ・人的リソース方略の項目のみ、5.0が最もよい数値でした。

<例4> 児童ごとの分析 (学習方略^{*1}・非認知能力^{*2})

児童	学力	柔軟的方略	プランニング方略	作業方略	人的リソース方略	努力調整方略
A	4-C	3.5	1.0	4.2	1.5	3.7
B	4-B	3.0	3.7	1.3	1.9	4.0
C	4-C	2.6	3.7	2.5	1.3	1.9

学力に課題がある数名をピックアップして分析する。

⇒同じ程度の学力でも、Aさんはプランニング方略、Bさんは作業方略、Cさんは努力調整方略に課題がある。3人に共通して、人的リソース方略に課題がある(他人への依存度が高い)

1 担当からの聞き取りや、授業参観により、よい取組を把握します。**【方法① 担当からの聞き取り】**

- 前年度、伸びている学年、教科を担当した教員から、学年全体や教科指導で取り組んだことや、共通して実践した指導方法、指導のポイント等の聞き取りを行う。

<聞き取り例>

- ・ 子供たちと接するとき、心がけていること（前向きな言葉かけ、一緒に遊ぶ等）
- ・ 授業の導入場面での工夫（興味をもたせる導入、めあて・見通しのもたせ方等）
- ・ 授業の展開場面での工夫（言語活動の充実、ペア・グループ活動の設定等）
- ・ 授業の終末場面での工夫（まとめの仕方、振り返りの充実等）
- ・ 学年で指導を徹底した取組（規律ある態度の指導、ノート指導、掲示物の工夫等）
- ・ 家庭学習の与え方（目安の時間の設定、チェックシートの活用、予習・復習等）

**聞き取りの
ポイント**

- ・ 上記の例を参考に、より具体的に、詳細を聞き取ってください。
- ・ 新たな取組や工夫した取組などにも着目して聞き取ってください。

【方法② 授業参観】

- 前年度、学力等を伸ばした教員の授業を参観する機会を設け、授業で見られたよい取組を把握する。

<参観の視点の例>

- ・ 主体的な学びを実現するための工夫
（学習目標や見通しのもたせ方、まとめと振り返りによる学習の定着等）
- ・ 対話的な学びを実現するための工夫
（互いの考えの比較検討の工夫、教師と子供・子供同士の双方向の対話の実現等）
- ・ 深い学びを実現するための工夫
（問題解決的・探究的な学習の実践、思考を深める発問や板書等）
- ・ 言語活動の充実（描写、要約、説明、記録、報告等を文章等でまとめる活動等）

**参観の
ポイント**

- ・ 参観するポイントを示すなど、授業後の協議が深まるような工夫をしてください。

2 「聞き取りの結果」や「授業参観の感想」等、分析結果を資料にまとめ、全体で協議、意見交換します。



校内研修例

協議例 1 どのような学力状況にある子供を重点的に伸ばしていくか。

- 学力が下位で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 「自分の考えを書くことが苦手」で、伸び悩んでいる子供を伸ばしたい。
- 伸びている子供を、もっと伸ばしたい。

(例えば伸びが著しい子供が中位層に集中している学校など)

協議例 2 学年(学校)として、どのようにして伸ばしていくか。

- 効果的と思われる取組を学年(学校)に広げたい。
- 学校の強みとして表れている項目を地域・保護者に広めたい。

3 仮説を設定し、それに基づく取組、検証を行います。

- 協議、意見交換を経て仮説を設定し、それに基づいた効果的な取組を共有します。
- 取組を実践し、効果について検証を行います。

● 学年(学校)、教員独自の**仮説を設定**し、仮説に基づく取組、検証を行う。

<仮説> (協議・意見交換により設定)

例「授業などで、自分の考えを、理由を付けて発表したり書いたりする機会を増やすことで、学力が伸びる子供たちが増える。」

<重点項目> (本校の実態及び協議・意見交換から設定)

例 ① 学力の階層が低い子供へのきめ細かな指導を行う。

② 授業規律を大切にする。

※ 上記①②は全教員で重点化して取り組む。

その他

分析支援プログラムを活用し、さらに課題を見つけ改善を図る

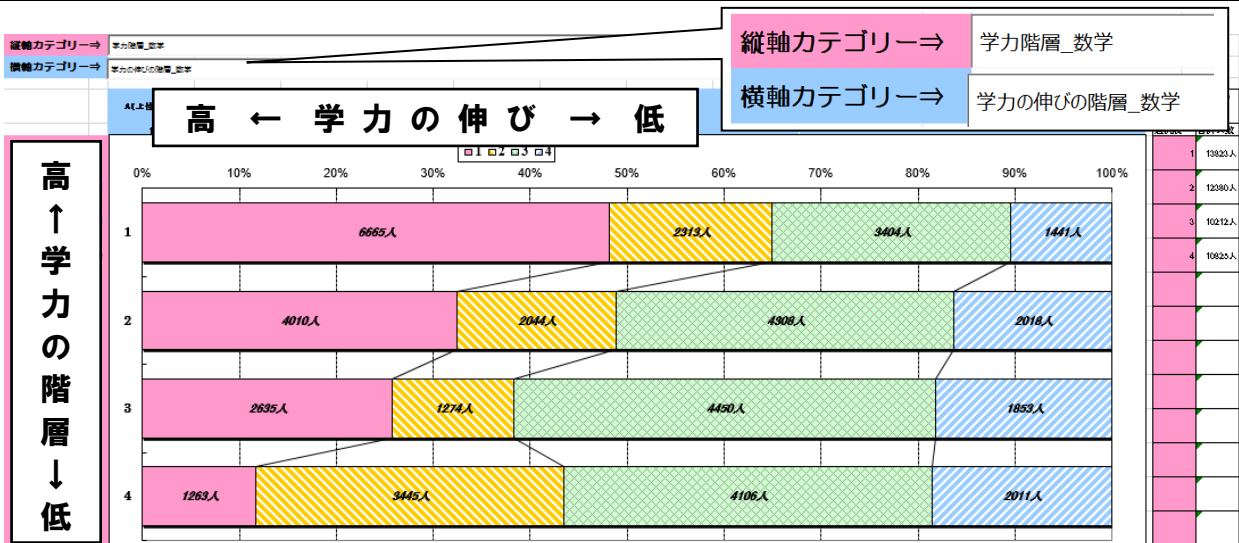
- 分析支援プログラムを使うと、「学力の伸び」や「学力の階層」と質問紙調査との相関関係を簡単に見ることができます。

活用例① 「学力の階層」と「学力の伸び」の相関関係を調べる

- 「学力の伸び」、「学力の階層」と質問紙への回答の相関関係を調べます。

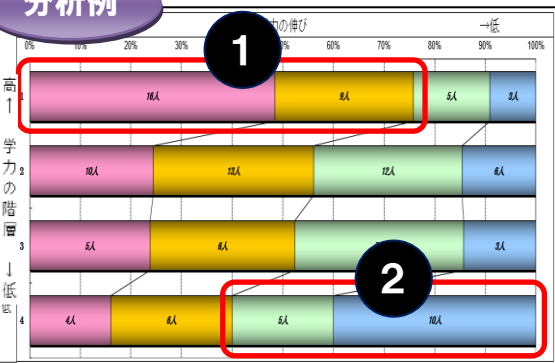
※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 「学力の伸びの階層」と「学力の階層」をクロス集計し、それらの分布をみる



手順2 自校の子供たちの学力を、「学力の伸び」と「学力の階層」の視点から分析する

分析例



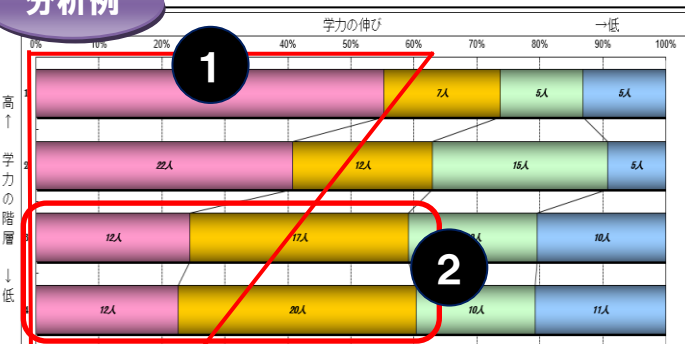
1 学力が高い階層は学力が伸びている。

2 学力が低い階層は学力が伸び悩んでいる。

⇒理解の進んでいる子供の発言を中心に授業が進んでいないか。

⇒学力階層の低い児童生徒が自分の考えを持てるような支援が必要ではないか。

分析例



1 学力の高い階層の方が、学力の伸びが大きい。

2 学力が低い階層の伸びをさらに高める必要がある。

⇒各階層に属する児童生徒により構成されるグループ等で、互いの考えを交流する場面があるとよいのではないか。

活用例② 「質問紙調査」と「学力の伸び」を視点とした分析

※ 分析支援プログラム「①クロス集計」を利用します。

手順1 分析の視点を設定し、該当する質問紙の項目を選ぶ。

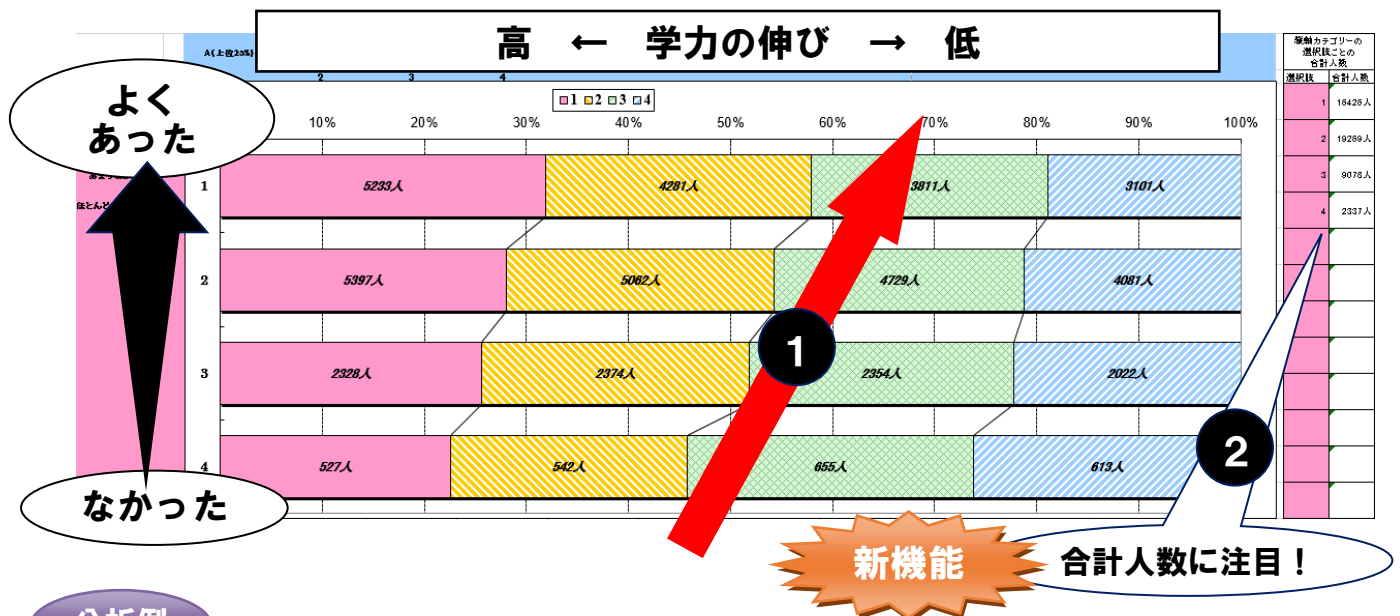
分析視点例1

どのような授業が、児童生徒の学力を伸ばしているのか？

手順2 「質問紙項目」と「学力の伸び」の視点から分析する。

質問紙項目例

自分の考えを理由を付けて発表したり書いたりできたこと



分析例

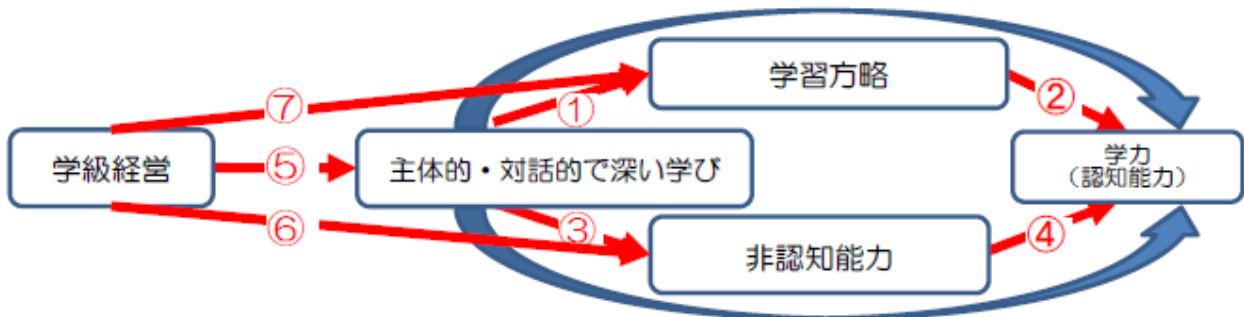
- 1 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と感じている児童生徒の方が、学力の伸びが大きい傾向がある。
⇒教科を問わず、解答するときは答えだけではなく、その理由を聞き返すようにしたらよいのではないか。
- 2 理由を発表したり、書いたりする機会が「よくあった」と答えている人数のほうが、なかったと答えている人数より多い。
⇒発表のときに答えだけでなく、その理由も考えている児童生徒が多い。
理由を考えさせるような工夫があるのではないか。
⇒なかったと回答する児童生徒を減らすために、どのような取組を行ったらよいだろうか。

- 各学校へ送付した帳票やデータは、併せ見たり、組み合わせたりすることで、多様な分析を行うことができます。
- 分析例を参考に、多面的な分析を行うことで、効果的な取組や課題の把握につながります。



○ 「埼玉県学力・学習状況調査」の分析からわかったこと（概要）

「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。



【①～④】主体的・対話的で深い学びは、子供たちの「非認知能力」や「学習方略」の向上を通じて、学力を向上させる。

【⑤～⑦】「学級経営」が、「主体的・対話的で深い学び」の実現や、子供たちの「非認知能力」「学習方略」の向上に重要

→「学級経営」がよいほど、「主体的・対話的で深い学び」が実現しやすい。
「学級経営」がよいほど、「非認知能力」「学習方略」を伸ばす。

<参考> 非認知能力とは？

→意欲や姿勢などのように数値化されない能力
本調査では、自制心、自己効力感、勤勉性、やり抜く力を測定

人間の能力

いわゆる学力であり、
たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

認知能力

非認知能力
(認知能力ではない能力全般)

(具体的な例)

自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やり抜く力	粘り強い、根気がある など

23

<参考> 学習方略とは？

→学習の効果を高めるために児童生徒が意図的に行う活動
本調査では、以下の6つの方略に分類

<p>柔軟的方略</p> <p>学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動</p> <p><質問例> 勉強でわからないところがあったら、やり方を色々変えてみる。</p>	<p>プランニング方略</p> <p>計画的に学習に取り組む活動</p> <p><質問例> 勉強するときは、最初に計画を立ててから始める。</p>	<p>作業方略</p> <p>ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動</p> <p><質問例> 勉強で大切なところは繰り返し書いたりして覚える。</p>
<p>人的リソース方略</p> <p>友人を利用して学習を進める活動</p> <p><質問例> 分からないところがあったら、友達に勉強のやり方を聞く。</p>	<p>認知的方略</p> <p>より自分の理解度を深めるような学習活動</p> <p><質問例> 新しいことを勉強するとき、今まで勉強したことと関係があるかどうか考えながら勉強する。</p>	<p>努力調整方略</p> <p>「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動</p> <p><質問例> 問題が退屈でつまらない時でも、それが終わるまでやり続けられるよう努力する。</p>

24



【帳票40】を活用することで、非認知能力や学習方略について分析することができます。